

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	入船の森保育園
経営主体(法人等)	横浜市
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市鶴見区浜町 1-1-1
設立年月日	平成 18 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

《総合評価》

【入船の森保育園の立地・概要】

●入船の森保育園は、JR鶴見駅からバスで12分程度、鶴見線浅野駅からは徒歩10分強の、産業道路の1本北を並行して走る道路に面し、入船小学校の校舎内に位置しています。利用する鶴見線は湾岸工業地帯への通勤路線であり、また、地名はその土地に住む地主の苗字がそのまま駅名に名づけられた経緯は特徴的です。近年は工場の海外転出に伴い、下請け工場の閉鎖が目立ち、代わって住宅地として振興し、海外や沖縄県等からの移住者も増え、住宅地の発展と共にバスの系列も増え、様々に変革が進んでいる地域です。

●入船の森保育園は、平成 18 年 4 月 1 日に開所した地域に根差した歴史ある保育園です。現在、定員 40 名で 0 歳児 5 名、1 歳～5 歳児は各 7 名の子どもたちが、家庭的な雰囲気の中でのびのびと成長しています。入船の森保育園は、文部科学省による入船小学校に設置された「分園」の運営を担い、平成 23 年に認可を受けてスタートし、横浜市では小学校に併設された保育園が 4 箇所あり、有効な活用形態として子どもたちの成長、交流等が有機的に図られた望ましい保育園です。運営は、昭和 30 年に設立された社会福祉法人鶴見乳幼児福祉センター（以下、法人という）で、横浜市に 3 保育園を運営しています。周辺には、入船公園、潮田公園、日東緑地、日東浜公園、東潮田公園等、多くの公園が点在し、公園の行事への参加、自然に触れ合う散歩等、子どもたちは身近に四季折々の自然に触れ、地域とのつながりを大切にして、多くの「宝物」と共に成長を育んでいます。

【入船の森保育園の方針】

●入船の森保育園の理念は、法人運営の系列園（3園）共通であり、共通理念を基に、園の保育理念として『子どもの人権を守り、人格（意思）を尊重し、それぞれの育ちの支援する』とし、「子ども時代を子どもらしく生きる」、「子どもたち一人ひとりを大切にする保育」を掲げ、保育方針は『生命の尊重・心身の健康』であり、「子ども一人ひとりの心を受容することで、情緒の安定を図り自己発揮のもとをつくります」、「『食』環境を充実させ、心と身体の基礎をつくります」としています。園目標は、「いっぱい遊ぼう 笑顔の毎日 ～Smile and Heart♡～ 遊ぶの大好き 食べるの大好き 元気印★ 自分が好き みんなも好き ハート印♡」とし、子ども・保護者も、外国籍の保護者も覚えやすく、親しみやすい温かいキャッチフレーズであり、子どもが大きくなっても心にリズムカルに刻まれるフレーズです。また、「☺、★、♡」を園のシンボルマークとし、笑顔溢れる、『子どもが主役』とした明るく元気な保育園を目指しています。入船の森保育園の特色の1つに、『森』を持つ入船小学校の環境を生かし、そして「食育」に力を入

れています。子どもを主体にした明るく元気な声が響き渡る保育園の原点は、恵まれた自然の中でのびのびとした成長、栄養バランスのあるおいしい食事で基礎体力を作り、子ども一人ひとりを大切にして保育にあたっていることにあります。

《優れている点》

1. 【入船の「森」の活用】

●入船の森保育園の園庭は、入船小学校の校庭を活用し、授業中は園児が校庭を独占して遊べる利点もあり、神奈川県内のいかなる保育園より広いと言えます。また、植物の育成ではブロックで製作された大きなプランターが保育園用として用意されており、恵まれた栽培活動がふんだんに実施できています。入船小学校内にある『森』には水が流れ、木々が生茂り、果物の実をつけ、豊かな自然が残り、水辺には蛙、ヤゴ、魚等が生息し、生態系が体験できます。『森』は小学校の教職員、地域の方々に維持がされており、昨今、高齢化が進み、維持が課題となってきました。しかし、『森』は継続して息吹き、子どもたちに「宝物」を伝え、豊富な木の実や果実から命を教わり、子どもたちにSmile (☺)、元気印 (☀)、Heart (♡)の源として大きく存在しています。

2. 【食育の推進】

●入船の森保育園では「食育」を大切にし、保育方針に『『食』環境を充実させ、心と身体の基礎を作ります。』を標榜して力を入れています。園庭で四季折々の野菜の栽培、収穫体験を通して「旬」を味わい、生長を観察して、本物に触れ、おいしく食す、を体験し、五感を育み、食べ物と体のかかわりにつなげていきます。園では、専任の栄養士、調理員を配置し、保育士も加わり、積極的に食育を推進しています。栽培活動・収穫体験を通して給食、調理活動に生かし、おいしい、楽しいと感じる体験から食への興味へとつなげる「食育」を心がけています。食については、栽培の他、日本の伝統的な献立、地域色豊かな行事食等を提供し、食の関心を広げ、興味が持てるよう取り組んでいます。

3. 【地域との関係】

●園が所在する鶴見地区は、地域性も加味して地域との連携が強い地区でもあります。園には外国籍の保護者や子どもも多く在園し、地域には沖縄からの移住者も多く、沖縄県出身者在住の地域も存在する等、園児や卒園児にも多くいます。地域との協調、一体感の最たるものが地域の盆踊りにあり、入船小学校の校庭で催されています。盆踊りは地域に定着し、多くの人が集まり盛大に開催されています。沖縄のエイサーを運動会、お楽しみ会で披露する等、地域に見守られ、共に子どもを育む背景があります。

《さらなる期待がされる点》

1. 【異年齢クラスの功罪の確認について】

●入船の森保育園では、保育室の確保を物理的に鑑み、0歳児（ももグループ）と1歳児（ちゅうりっぷグループ）が異年齢で「ちょうちょ組」とし、2歳児（さくらグループ）と3歳児（つくしグループ）で「ことり組」、4歳児（たんぽぽグループ）と5歳児（すみれグループ）は「みつばち組」とした異年齢で3つのクラス割りとなっています。卒園児のほとんどが入船小学校へ入学するため、行き来できる入船小学校1、2年生の子どもたちと就学を見据えた交流も異年齢での生活が生かされ、疑似兄弟姉妹関係の構築にも良い異年齢保育が実現しています。年齢別での活動では下の年齢に引っ張られる傾向が否めず、新保育所保育指針の3段階（0歳児、1～2歳児、3～5歳児）の保育区分に関しても工夫を考慮し、取り組んでいかれることを期待しています。